

組織目標評価報告書(2019年度)

部局名:

薬学部

部局長名:

三好 伸一

目標・取組		目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
	関連する 年度計画の番号	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【入試の実施状況】</p> <p>①志願者確保に向けて、薬学部教員が入試説明会を開催する高校訪問を実施する。</p> <p>②「学力の3要素」の評価をはじめとする改革方針をふまえ、2021年度入試以降の入学選抜の実施方法について検討する。</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】</p> <p>①教員の教授法の向上のため、授業参観を励行し全教員のピアレビューを目指す。</p> <p>②撮像データやMoodle システム等を利用した教授法の自己評価を実施する。</p> <p>③2020年度に受審する第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)に向けた自己点検・評価を実施することにより、組織的なPDCAを行い教育の質を保証する。</p> <p>④各種サポートが必要な学生(病気、障害、不登校など)の学習・単位修得状況を把握し役立てることで、学生支援体制を強化する。</p> <p>【教育方法・内容】</p> <p>①前年度設置の鹿田地区と津島地区の遠隔講義システムを高年次生授業等にさらに活用する。</p> <p>②学生の研究指向性を高めるため、1・2年生が研究室において短期間の基礎実験・研究を行う「薬学研究入門」を正規授業科目(0.5単位)として開講する。</p> <p>③成均館大学薬学校(韓国)へのキャンパスアジア事業短期派遣プログラム「短期医療応用コース(薬)(成均館)」を正規授業科目(2単位)として開講・実施し、薬学部のグローバル人材育成コース「グローバルスタディ2」の対応科目としても単位を認定する。</p> <p>④医療系キャンパスとして合同で企画するハイフォン医科薬科大学(ベトナム)での研修と現地の日本製薬企業の見学、およびミャンマーでの合同医療体験を組んだ「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」を実施する。</p> <p>⑤サン・カルロス大学(フィリピン)への短期派遣プログラムの開発に向け、協議を進める。</p> <p>⑥薬学部(創薬科学科)に2020年度も私費外国人留学生1名を受入れるとともに、2019年度に入学した私費外国人留学生3名の就学支援を組織的に行う。</p> <p>⑦外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムを実施し、参加希望の成均館大学薬学校(韓国)学生6名(大学院学生を含む)を受け入れ、薬学部の外国人短期研修生受入プログラムとしての修了証の発行をする。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】</p> <p>①大学院入学試験(4年制)および薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについての方法を検証・改善する。</p>		<p>【入試の実施状況】</p> <p>①志願者確保に向けて、平成30年度末に実施した希望アンケートに基づき、岡山・兵庫・香川・広島・山口研の計17校の高等学校に対し、薬学部教員が入試説明会を開催する高校訪問を実施した。</p> <p>②「学力の3要素」の評価をはじめとする改革方針をふまえ、2021年度入試以降の入学選抜の実施方法を作成し、これに基づき2021年度入試の選抜要項を策定した。</p> <p>【教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)】</p> <p>①教員の教授法の向上のため、授業参観を励行し、10名の教員のピアレビュー報告があった。</p> <p>②撮像データやMoodle システム等を利用した教授法の自己評価を実施し、延べ99科目の報告があった。</p> <p>③組織的なPDCAを行い教育の質を保証するため、2020年度に受審する第2期薬学教育第三者評価(分野別認証評価)に向けた自己点検・評価を実施した。</p> <p>④各種サポートが必要な学生(病気、障害、不登校など)の学習・単位修得状況を把握し役立てることで、学生支援体制の強化を行った。</p> <p>【教育方法・内容】</p> <p>①前年度設置の鹿田地区と津島地区の遠隔講義システムを4年次対象の1、2学期授業(3科目)に活用し、キャンパス間移動の交通リスク軽減に活用した。</p> <p>②学生の研究指向性を高めるため、1、2年生が研究室において短期間の基礎実験・研究を行う「薬学研究入門」を正規授業科目(0.5単位)として開講し、総計21名の受講者が履修した。</p> <p>③成均館大学薬学校(韓国)へのキャンパスアジア事業短期派遣プログラム「短期医療応用コース(薬)(成均館)」を正規授業科目(2単位)として開講・実施し、4名の学生が参加した。薬学部のグローバル人材育成コース「グローバルスタディ2」の対応科目としても単位を認定した。</p> <p>④医療系キャンパスとして合同で企画するベトナムとミャンマーを歴訪しての「多分野医療系学生の共通経験を通じた医療連携グローバル人材育成プログラム」は、2名の学生が参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染域の拡大が懸念されたため事業を中止した。</p> <p>⑤高度先導的薬剤師養成事業の国際派遣プログラムに採択されたサン・カルロス大学(フィリピン)への短期派遣プログラムを徳島大学薬学部と合同で実施し、本学からは4名の薬学科学生が参加した。正規授業科目(2単位)として単位を認定した。</p> <p>⑥薬学部(創薬科学科)において、2020年度も私費外国人留学生を2名を受入れることとなった。また、2019年度に入学した私費外国人留学生3名については就学支援を組織的に行った。</p> <p>⑦外国人短期研修生:キャンパスアジア・短期医療応用コース(薬)(成均館)受入プログラムを実施し、参加希望の成均館大学薬学校(韓国)学部学生6名を受け入れた。</p> <p>【教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について】</p> <p>①大学院入学試験(4年制)および薬剤師国家試験(6年制)の合格率向上に関する取り組みについて、これまでの方法を検証し、改善を行った。</p>
②研究領域		
	関連する 年度計画の番号	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
「大学院医歯薬学総合研究科 薬学系」に記載		「大学院医歯薬学総合研究科 薬学系」に記載
③社会貢献(診療を含む)領域		
	関連する 年度計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>①薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学部公開講座の開催等を通じて、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努める。</p> <p>②地域の職能団体等と連携した卒前・卒業後教育の実施、岡山県薬剤師研修協議会と連携した各種薬剤師研修事業への参画を推進する。</p> <p>③各種講演会等にあわせて薬用植物園の一般公開を実施し、薬学関連の科学に対する社会的な理解を進める機会とする。</p> <p>【国際交流・協力】</p> <p>①成均館大学(韓国)、サン・カルロス大学(フィリピン)との連携をさらに深めるとともに、他のアジアの有力大学・研究機関等との連携を進め、国際交流を推進する。</p> <p>【その他】</p> <p>①同窓生の交流を推進するため、岡山大学ホームカミングデーにおいて、卒業生と在学生の交流の機会を設ける。</p> <p>②岡山大学創立70周年記念事業に協力するとともに、薬学部創立50周年事業を企画・実施する。</p>		<p>【地域社会との連携、社会貢献】</p> <p>①薬剤師および一般社会人等を対象とした薬学部公開講座(参加者73名)、高校生および一般社会人を対象とした公開講演会(参加者64名)を開催し、薬学に関する最新情報の提供と知識の向上・啓発に努めた。</p> <p>②岡山県薬剤師研修協議会等、地域の職能団体等と連携した卒前・卒業後教育を実施した。また高大連携事業や岡山大学付属中学校の大学訪問において、薬学部の取組や薬剤師の役割について講義を行った。</p> <p>③公開講演会、公開講座、ホームカミングデー2019等にあわせて薬用植物園の一般公開を行い、地域住民や講演会等の参加者に向けて薬学関連の科学に対する社会的な理解に努めた。</p> <p>【国際交流・協力】</p> <p>①成均館大学(韓国)との学部学生を双方向的に継続実施した。サン・カルロス大学との交流を推進するため、さくらサイエンスプランで学部学生3名(大学院学生1名)を招へいた。</p> <p>【その他】</p> <p>①ホームカミングデー2019において、岡山大学薬学部創立50周年事業として、同窓生シンポジウムを開催し、卒業生・在学生等123名の参加を得た。</p> <p>②薬学部公開講座や公開講演会を岡山大学創立70周年記念事業および薬学部創立50周年事業として実施した。</p>
④管理運営領域		
	関連する 年度計画の番号	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>【部局運営体制の改善強化】本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有するとともに、解決に必要な情報を継続的に発信することを推進する。</p> <p>【部局組織の活性化】昨年度策定の人事に関する将来計画案に基づき、研究分野の整理と統合を推進し、教授・准教授・助教の体制構築に努めるとともに、優秀な若手人材の積極的な確保に努める。主要委員会等の委員として、若手教員や新任教員等を適切に配置することを目指す。</p> <p>【ダイバーシティの推進】女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討する。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を目指す。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進する。</p> <p>【施設整備の推進】安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設の点検および機能改善整備を推進する。</p> <p>【法令遵守の徹底】情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図る。</p> <p>【その他】国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学等との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を進める。</p>		<p>【部局運営体制の改善強化】本学や本学部の課題について、関連する委員会等と共有した。また、課題の解決に必要な情報を継続的に発信した。</p> <p>【部局組織の活性化】昨年度策定の人事に関する将来計画案に基づき、研究分野の整理と統合の推進、教授・准教授・助教の体制構築、優秀な若手人材の積極的な確保に努めた。主要委員会等の委員として、若手教員や新任教員等の適切な配置を進めた。</p> <p>【ダイバーシティの推進】女性教員のさらなる採用や昇進等の可能性に関して引き続き検討し、女性教員1名の内部昇任の審査に着手した。</p> <p>【効率的・戦略的な予算配分・執行】省エネ意識の喚起等によって経費節減を図るとともに、各委員会等の実施計画等を精査し、より効果的な予算執行を行った。</p> <p>【安全衛生に対する配慮】適切な管理活動計画を立案し、それに基づいた適正な安全衛生活動を推進した。</p> <p>【施設整備の推進】安全・安心な教育研究環境を確保するため、現有施設を点検し、機能改善の整備を進めた。</p> <p>【法令遵守の徹底】情報セキュリティ、適切な会計処理、適正な研究活動等に関して、継続的に法令遵守について啓発するとともに、講習やwebシステム等による確認と周知を図った。</p> <p>【その他】国際交流に関して、成均館大学、ミャンマーFDA、ハイフォン医科薬科大学等との交流をさらに深化させ、学生交流の実質化を推進した。</p>